

視察（研修）報告書

令和 5年11月 9日

府中市議会議長 様
創生会会長 様

会派名又は 創生会
議員名 真田 光夫

日 時	令和 5年10月30日（月） から 令和 5年10月31日（火）
研 修 先	全国市町村国際文化研修所（JIAM）
研 修 コ ー ス	令和5年度第2回市町村議会議員特別セミナー（オンライン）
研 修 タ イ ト ル	地方行財政
参 加 者	真田 光夫 参加人数：126名、オンライン：67名
研 修 内 容	目的： 日々めまぐるしく変わりゆく国内外の情勢の中で、地方議会の議員には、様々な行政課題について学び、施策を提案していくことが求められています。 今回のセミナーでは、「地方行財政」というテーマのもと、各分野でご活躍の先生方から講演をいただき、改めて地域を見つめ直すとともに、地方議員に求められる役割について多角的に考え学びます。
研 修 内 容	タイトル：常にさらなる進化を目指して ～組織づくりとリーダーシップ～ 帝京大学スポーツ局長 スポーツ医科学センター 教授 岩出雅之氏 1. 自ら学び、成長する：自律型人材育成 ・マズローの欲求理論に基づき、成長欲求が自己実現の源泉であることが強調されている。 ・若者は青年期にアイデンティティの確立を求める特徴があり、成功する傾向のある人は自己効力感を高め、失敗しやすい人は外発的動機に依存している傾向がある。 2. 若者のやる気を引き出すコツ：あなた（私）が悪いことに気づくこと！ ・若者の行動パターンや心理について、指示命令や飴と鞭ではなく、内発的動機を促すアプローチが重要であることが示唆されている。 3. 組織づくりをうまく行い「チームカルチャ」をつくる 心理的安全性や支援、経験学習サイクルを通じて、強い組織や関わり力の向上が重要視されている。

<p>所 感</p>	<p>岩出氏のアプローチは非常に実践的で、組織づくりにおいては心理的安全性や内発的動機の重要性を強調しています。特に、若者とのコミュニケーションにおいては、なぜ？の理解と共に目的や自律を重視する姿勢は、持続可能なリーダーシップの鍵となると思われます。</p> <p>「まずは自分から始めましょう！」を学んだので実学として、学び続け、変わり続け、アップデートし続けるようになりたいと思いました。</p>
<p>研 修 内 容</p>	<p>タイトル：今後の地方自治のあり方や議員に求められる役割</p> <p>法政大学 総長 自治体議会改革フォーラム 廣瀬克哉氏</p> <p>1. コロナ期の振り返りと議会改革の課題 コロナを通じて、リスクコミュニケーションの課題や市民の情報アクセスの重要性が認識された。議会改革の課題はコロナ前から持ち越されており、議会の機能継続や情報共有の重要性が強調された。</p> <p>2. 統一選挙戦で見えた課題 多極化や議員の担い手の変化、議会と住民の関係性の向上が求められた。また、政策づくりや議員の役割への理解が必要であり、議会の透明性と住民への理解を促進する必要があると言われた。</p> <p>3. 議会改革の課題と自治体の持続可能性 議会間のギャップや自治体の消費者感覚に対する議論を挙げられた。オーナー感覚の涵養（かんよう）と自治体の根本的な存在意義への理解が必要だと言われた。</p>
<p>所 感</p>	<p>内容は、地方自治体の議会における課題や改革の必要性に焦点を当てています。特に、コロナ禍における情報伝達やリスクコミュニケーションの重要性、議会の機能継続、そして統一選挙で浮き彫りになった議員の担い手の変化などが強調されています。これらの課題を克服し、議会と住民の関係性を強化することが、地方自治体の持続可能性と良好な行政運営の鍵を握っていると学びました。</p>
<p>研 修 内 容</p>	<p>タイトル：地方自治行政の課題と将来について</p> <p>元総務事務次官 黒田武一郎氏</p> <p>1. 令和6年度予算等の重要ポイント 総合経済対策の策定に焦点を当て、物価安定や地方経済の支援、国内投資促進、社会変革の推進などが重要視されています。また、人口減少や災害リスクに対する国土強靱化、デジタル化への取り組みなど、幅広い政策が提案されています。</p> <p>2. 地方行政の財政課題と舵取り 普通交付税の内訳や国債残高の増加が指摘され、歳入増や歳出削減の難しいバランスが求められています。また、財政面の課題に加えて、人口減少や高齢化に対応する地方行政のあり方が問われています。</p> <p>3. 人口減少と介護保険の課題 人口減少や高齢化による介護需要の増加に対する施策が提案され、需要と供給の調整やデジタル技術の活用などが重視されます。また、地域ごとの高齢化率</p>

		の格差や介護保険制度の改革が課題として挙げられています。
所	感	令和6年度予算は、人口減少や高齢化、財政の健全化など、将来に向けた施策が提案されています。また、デジタル化や災害対策など、時代の変化に即した取り組みが強調されています。議員の副業・兼業、立候補に伴う休暇制度などの提案もあり、地域社会の持続可能な発展に向けた多角的なアプローチが示されていました。また、多様な人材の参画やデジタル化が求められ、より開かれた地方行政の実現が重要視されていることを学びました。
研	修	内
容		<p>タイトル：食ベチョクが考える持続可能な一次産業に向けて 食ベチョク代表 秋元里奈氏</p> <p>1. 食ベチョクの概要とビジネスモデル 食ベチョクは生産者と消費者を直接つなぐオンラインの直売所で、生産者が販売価格を自由に設定できる特徴がある。また、生産者の粗利が通常の流通経路よりも高く、農家や漁師など約9000軒以上の生産者が登録している。</p> <p>2. 食ベチョクの背景と市場動向 農業従事者の減少や高齢化、コロナ禍による消費者の意識変化などの背景があるが、オンラインでの食品購入の増加や市場規模の拡大が見込まれている。</p> <p>3. 食ベチョクの事例紹介と販路拡大 千葉県野菜や鳥取県の地鶏など、各地の生産者が食ベチョクを活用し、直売や販売促進を行っている。また、さまざまな販路拡大策や支援プログラムが展開されており、地方自治体との連携も進んでいる。</p>
所	感	食ベチョクは、生産者と消費者の直接取引を可能にするプラットフォームとして、地域農業や水産業の活性化に寄与しています。特に、農業従事者の減少や高齢化といった課題に対応し、新たな販路を開拓することで持続可能な一次産業の発展に貢献しています。また、災害時の生産者支援やSDGsへの取り組みなど、社会的な側面にも配慮した活動が評価されます。是非、府中市の小規模農業経営者にもお伝えしたいと思いました。